

事務事業名		市有牛貸付事業			☒ 実施計画登載事業 ☐ 合併建設計画登載事業																								
政策体系	政策名	05:豊かな市民生活を実現する産業の振興			事業期間	予算科目 会計 款 項 目 事業 01 06 01 04 03																							
	施策名	20:産地化をめざした農林業の振興																											
	基本事業名	01:農業経営の安定化																											
根拠法令					☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始 昭和56 年度 ~) ☐ 期間限定複数年度 [計画期間] 年度 ~ 年度 全体計画欄の総投入量を記入																								
所属	部課名	農林水産部 農林課																											
	係 名	農政係	電話	27-3111																									
			内線	345																									
事務事業の概要 (具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述) ・市が肉用牛繁殖雌牛を購入し、農家に5年間を期限として貸付け、農家は、期間内に生まれた雌仔牛1頭を市に返還する。 還後、市は、農家に貸し付けた牛を無償譲渡する。 ・農家は、期間内に仔牛を返還できなかった場合は、貸付牛の導入額を納付する。 ・繁殖牛の導入を目的とした基金の積み立て(国・県・市 各1/3)により運営されてきたが、平成18年度から県単事業に移行となり、基金残高の国庫分を返還することとなった。 ・平成18年度から基金の目減りを避けるために仔牛での返還を不可とし、取得経費での譲渡としている。 ・主な業務は、農家の要望受付、農協に依頼して雌牛の導入、毎年、仔牛生産有無の確認、牛の返還と仔牛の評価、譲渡対価(貸付牛購入時の代金)の受取、農協を通じた牛の売却。 ・事業費は、雌牛購入費の一部が支出される。																													
全体計画 (期間限定複数年度のみ) <table> <tr> <td rowspan="6">総投入量 (千円)</td> <td rowspan="5">事業費 内訳</td> <td>国庫支出金</td> <td></td> </tr> <tr> <td>都道府県支出金</td> <td></td> </tr> <tr> <td>地方債</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> </tr> <tr> <td>一般財源</td> <td></td> </tr> <tr> <td>事業費計 (A)</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">人件費</td> <td>正規職員従事人数</td> <td></td> </tr> <tr> <td>延べ業務時間</td> <td></td> </tr> <tr> <td>人件費計 (B)</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td colspan="2">トータルコスト(A) + (B)</td> <td>0</td> </tr> </table>						総投入量 (千円)	事業費 内訳	国庫支出金		都道府県支出金		地方債		その他		一般財源		事業費計 (A)	0	人件費	正規職員従事人数		延べ業務時間		人件費計 (B)	0	トータルコスト(A) + (B)		0
総投入量 (千円)	事業費 内訳	国庫支出金																											
		都道府県支出金																											
		地方債																											
		その他																											
		一般財源																											
	事業費計 (A)	0																											
人件費	正規職員従事人数																												
	延べ業務時間																												
	人件費計 (B)	0																											
トータルコスト(A) + (B)		0																											

1 現状把握の部 (DO)

(1) 事務事業の目的と指標		
手段 (主な活動)	活動指標 (事務事業の活動量を表す指標)	
	名称	単位
前年度実績 (前年度に行った主な活動)	ア 当年度市有牛貸付頭数	頭
今年度計画 (今年度に計画している主な活動)	イ 累積市有牛貸付頭数	頭
	ウ	
対象 (誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等	対象指標 (対象の大きさを表す指標)	
	名称	単位
市肉用牛飼育農家	カ 市内肉用牛飼育農家	戸
意図 (この事業によって、対象をどう変えるのか)	キ	
	ク	
結果 (基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)	成果指標 (対象における意図の達成度を表す指標)	
	名称	単位
農作物が安定して高く売れる。	サ 本事業で当年度に生産された牛頭数	頭
	シ	
	ス	

(2) 総事業費・指標等の推移			年度	17年度 (実績)	18年度 (実績)	19年度 (実績)	20年度 (実績)	21年度 (目標)	22年度 (目標)	
			単位							
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千 円						
		都道府県支出金	千 円							
		地方債	千 円							
		その他	千 円	1,651	0	1,400	1,626	1,050	1,050	
		一般財源	千 円							
		事業費計 (A)	千 円	1,651	0	1,400	1,626	1,050	1,050	
	人件費	正規職員従事人数	人	1	1	1	1	1	1	
		延べ業務時間	時 間	160	160	160	160	160	160	
		人件費計 (B)	千 円	640	640	640	640	640	640	
		トータルコスト(A) + (B)	千 円	2,291	640	2,040	2,266	1,690	1,690	
活動指標			ア	頭	3	0	3	3	2	2
			イ	頭	173	173	176	179	181	183
			ウ							
対象指標			カ	戸	78	72	72	69	69	69
			キ							
			ク							
成果指標			サ	頭	12	9	7	9	11	13
			シ							
			ス							

事務事業ID	0524	事務事業名	市有牛貸付事業
--------	------	-------	---------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等			
この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？			
・昭和58年度から事業開始。 ・肉用牛飼育による高齢者の生きがい対策。			
事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？			
・畜産農家の減少に伴い、貸付頭数も年々減少傾向にある。 ・BSE問題を契機として、安全な国産牛の需要が増加し、子牛価格も上昇傾向にある。			
この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？			
・農家からは、事業継続の方向で要望されている。			

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	政策体系との整合性	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている [理由] ・高齢者の生きがい対策と、後継者育成を目的としており、市場価値の高い優良雌牛を導入していることから、市農業の振興に結びつく。
	公共関与の妥当性	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である [理由] ・国庫分の返還により県・市のみ負担による基金の積立になったが、関与の枠組みが定まっているため、関与は妥当。
	対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 適切である [理由] ・対象、意図とも妥当
有効性 評価	成果の向上余地	☐ 向上余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 向上余地がない [理由] ・毎年度、予算の範囲内で3頭貸付頭数が限度であり、1年につき子牛1頭が生産されることで成果が維持できる。
	廃止・休止の成果への影響	☐ 影響無 [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 [その内容] ・本事業を廃止した場合、高齢者によって維持されてきた肉用牛部門は、優良雌牛の入れ替え導入が困難となり、畜産農家が減少すると思われる。
	類似事業との統廃合・連携の可能性	☒ 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) 農協の牛貸付事業 ☐ 統廃合・連携ができる [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 統廃合・連携ができない [理由] ・農協の事業では、購入できる牛の価格に一定の制約があるため(高い優良雌牛は購入しにくい)。
効率性 評価	事業費の削減余地	☐ 削減余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない [理由] ・県・市の負担割合が定まっており、貸付頭数が削減しない限り、事業費は削減できない。
	人件費(延べ業務時間)の削減余地	☐ 削減余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない [理由] ・助成金支出事務にかかる担当者の人件費のみであり、削減できない。
公平性 評価	受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である [理由] ・受益者には、応分のリスク(期間内に仔牛を生産できなかった場合、貸付牛の導入額を納付する)があり、適正である。

事務事業ID	0524	事務事業名	市有牛貸付事業
--------	------	-------	---------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること) <table border="1"> <tr> <td>目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>有効性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>効率性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>		目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	(2) 全体総括(振り返り、反省点) 肉用牛飼養農家の所得向上及び経営の安定化、さらに当市畜産振興には必要な事業である。									
目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☒ 現状維持 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) ・本事業は、関与の枠組みが定まっている(県・市)事業であり、当市の畜産振興のためにも現状での継続が必要。		(4) 改革・改善による期待成果 左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		●	×																			
	低下		×	×																			
(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等 特になし。																							

4 事務事業の2次評価結果

(職 名)	原則として施策の主管課長	(氏 名)
2次評価者	農林課長	

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択) ☐ 記述不足でわかりにくい ☐ 一部記述不足のところがある ☒ 記述は十分なされている 評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択) ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない) ☐ 一部に客観性を欠いたところがある ☒ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)		(2) 2次評価者としての評価結果 <table border="1"> <tr> <td>目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>有効性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>効率性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>	目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	(3) 評価結果の根拠と理由 左記 ~ とも適切であり、見直し等の余地はない。									
目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																						
有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																						
効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																						
公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																						
(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☒ 現状維持 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 現状どおり、継続して事業を実施する。		(5) 改革・改善による期待成果 左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持		●	×																				
	低下		×	×																				

5 最終評価結果

(1) 行政経営推進会議等での指摘事項
